

日本人はなぜ成熟できないのか

曾野綾子 クライン孝子 海竜社

(はじめに)

日本人は誠実で物知りで頭がよく生真面目な勉強家が多く実務家として素晴らしく有能なDNAを持った人種だ、しかし日本人は何故か大人でない。外国にはブランド物でない小物と体に馴染んだ服で堂々としている女性はいくらでもいる。日本人の娘さんが何を考えているのか分からない無表情な顔でブランド物を買って漁っている姿を見てどれ程悲しかったか、どここの国にも苦勞しっぱなしという顔のホテルボーイさんや腕の太い市場のおかみさんが一瞬の内に生き生きとした感情や親切を示し、その人らしい人生の断面をスラリと口にする事にどれ程感動したことか。

日本には正義が好きで地球の為や難民・少数民族の為に発言する人は幾らでもいるが、私には魅力的ではない、クライン孝子さんから外国人のモノの考え方や政治の実情、大人びた社会構造と人の心を解説し補強して貰えて本誌が完成した(曾野)

(曾野)～不幸はれっきとした私有財産～イタリアに行くと素敵な中年女性によく出会う、私の泊まる裏町の2流ホテルで10年も前から着ているような服装で唯一人食事している姿はまるで絵画のようにその人の人生が見える気がして感動する。一方ブランド品を買って漁っている日本の若い女性は年々醜くなっている様に見える。外国の人は会話も実に洒落ていてサラッとユーモラスに表現しその程度の「人生の会話」が楽しみです。私は両親が不仲で幼い頃に父親の家庭内暴力・母親の自殺未遂の道連れなりそんな苦しみを経験した分、人生の厚みを見ることで得をしたと思っています。人間は複雑で幸運より挫折、貧困、病気などの不幸がその人を作り上げる。

ヨーロッパには「健全な肉体には始末の悪い単純な精神が宿ることが多い」と正面切って言う人が結構います。日本人は不幸の根源を社会や政治が悪いからだと考え、不幸を自分の人生の糧にしようとしないから大人になれない、そんな気がします。

(クライン)～「戦争」がドイツを大人にした～ドイツに住んで46年ヨーロッパは歴史の長い分、大人という感じがする、その点米国は子供っぽく物事の結論を単純に決めて行動する。日本は2千年の歴史があり米国より成熟と言いたいのが四方を海に囲まれほぼ単一民族で他国に侵略され奴隷にされた歴史がない。その点英国より欧州大陸は戦争を繰り返し成熟、独は第二次大戦で日本と同じ敗戦国乍ら戦争が本当の意味で終わったのは1995年の敗戦50周年記念日だったと。

日本人にはとても信じられない事で1989年11月「ベルリンの壁」が撤廃されるも東独には38万人の旧ソ連兵、旧西独にもほぼ同数の連合軍が駐屯、その上ベルリンは米ソ英仏軍の管理下で独連邦軍の立ち入り禁止、独領土内でそれとなく共同で監視する占領政策が行われその結果独は史上初めて70年間一度も戦争しなかった。この間それぞれの思惑でドイツを離れない戦勝国の軍隊をしたたかに御して説得1994年8月先ず露軍をブラスバンドで送り出し、これは欧州史上かつてない偉業と称えられた。

戦勝国は各々の政治体制を持ち寄ってドイツを切り刻もうとし、この過酷な運命の渦中で鍛えられ成長した。近年独の民主政治が先輩の英・仏・米より上手く機能していると評価され外交上手と舌を巻かれるのもこうしたたかきによるもの。

一方日本は敗戦後西側で最も豊かで民主主義・人権保護に寛大と言われた米国のみならず占領され食料や衣料を届けられ荒廃した日本の復興に積極的に手を貸してくれた冷戦中も平和ムードを満喫、米国の過保護の下で真の対立関係を知らず過ごしドンドンひ弱になった。

(曾野)～悪は存在しているから学ばなければならない～戦争も嵐も洪水も貧困・病気も私達は全ての事から学べる、悪も善と同じ位に存在を正視すべきもの、キリスト教は性悪説で人は放っておくと悪事をする、逆に悪い事をしてあまりガッカリするな、明日はチョット神様の方へ近寄れるかもしれないと教える、欧州の人は歴史の中で人の悪を目の当たりにしたり自ら体験それを自らの財産としてきたので正義の思いと、人は邪悪なものとの認識があるが日本人はそういう発想が全くない人達が沢山いる、日本人の人道ぶりは激しく憎しみ合って闘ってきた世界の人々には到底受け入れられない。

(クライン)～日本人の人道主義のいかがわしさ～2000年の西鉄バスハイジャック事件では解決する迄15時間、その間に一人殺された、独なら1～2時間で解決と独の人はあきれていた。少年は殺人を犯し正義等あるわけがないのに犯人を弁護する変な人道主義は不思議で仕方がない。独で数年前にエリート養成校で乱射事件により16名殺害され19歳の生徒の動機は教師への憎しみと看られ60歳の教師が「殺すなら僕を見て殺せ」と凄みひるんだ際に空き室に閉じ込めた為に犯人はそこで自殺、独は国旗を半旗にして週末の全ての行事を中止、週明けに全国で一斉に黙とう、首相はじめ続々と現地に駆け付けた、1週間後には大統領はじめ10万人の参列者の合同葬儀、2m程のローソクと、その横に犯人を弔う小さなものも、大統領の弔辞「全ての国民が絶対に起こりえないと思う事が起こった、しかし社会が団結する為には一人一人が他人と関わりあっていくことが大切だ」同時に犯人の家族についても「悲しみと羞恥心は計り知れない、しかし人はいかなる行為を行っても人であることに変わりはない」と。

独の人の心の広さ、人に対する配慮、報道にあたる人の気配りに敬意。

(曾野)～めんめんと受け継がれるギャラントリーの精神

～障害者の方とノートルダム寺院に行った時、丁度復活祭で礼拝堂は満員電車の状態、祭壇に行くのを諦めかけた時に道が開いた～まるでモーゼが紅海を渡ろうとしたときのように。

イタリアの教会にも障害者の方とよく行くが何十段もの階段で男手が足りない時も必ず守護の天使が現れる。私の周りには奥さんがいないとご飯も炊けず掃除・洗濯も出来ない男性が多く奥さんが入院したり、先に亡くなるとオロオロしている、そういう状態は残酷ですね。

(クライン)～一人の人間としていかに自己実現するか～私はドイツの夫と結婚した理由の一つは「女性であるより一人の人間であってほしい」と。私の父は母に暴力を振るい母はただ耐えていて女性も強くならなくてはと痛切に感じていた、教師の資格を取り、ホテル勤務で英会話を勉強し商社で貿易業務を身に着け男性に負けない技術で海外に出ようと思ったから。独では男女の別なく昇進の機会がある、油断しているとあっと言う間に夫にガールフレンドが出来る。

ドイツの国会議員の3人に一人は女性、日本にも優れた女性が多いのに表に出たがらないのは残念です。

(曾野)～勇気を育てなかったために 人間の精神は育たなかった～戦後日本人は幼児化し悪評を恐れるようになった。勇気がないことはマスコミも同罪で人道にことよせて事なかれ主義と戦後もズーと「言論の弾圧」私が乞食と書いたら大新聞が差別用語だから書き直してくださいと言ったが断じて聞き入れなかった、インドでは世襲で乞食はれっきとした職業、日本人の精神はドンドン単純化・幼児化している。

(クライン)～無邪気なお人好しのままで大丈夫？～日本は戦後に米国から自由と平等を取り入れたがその本質は分かっているから妙な平等主義や正義感で世界の常識とズレている。

ドイツは東西統一後ソマリアに17百人の兵隊を送り国連から相当の費用を貰った、日本は何時もお金を渡すだけ、その実・陰ではお人好しの国だとアザ笑っている。

(曾野)～疑う勇気を持たなければいけない～ 日本に ODA(政府開発援助)の使い方でも政治的テクニックも外交力も駆け引きも出来ない嘘もつけない善良だが無能、私は40歳から NPO で働き援助金を出す相手は発展途上国でも活動している日本人の神父と修道女に限っているそして「大司教なんかには渡さないでくださいね」と押念。日本財団の会長をしていた時も「人を見たら泥棒と思いなさい」と言い続けてきた、意図するところにお金が届いているかアフリカの奥地にも足を運ぶ事を原則とした「ワンダフル」は「何か分からないことがいっぱいある」という意味だから疑う事から始まっている。

(クライン)～対立を嫌うお坊ちゃま～ドイツ工科大学の教授が大阪の大学で講義してきて「日本の技術は素晴らしい！必ず日本は世界のトップに踊り出す」又「日本の国民ほど誠実で真面目な民族は他にいない」と、しかし日本人は他の民族と暮らした歴史がなく他民族がどういふものか、理解できず、できるだけ対立を避け事なかれ主義に走る傾向があり国際的なイザコザに直面すると立ち往生してしまう傾向にある。

(曾野)～この世に正解はない～日本人は全てか無かで中間のあいまいな存在意義を認めない、今、拉致問題以来、北朝鮮との対応で苦慮しているが500年も前にマキャベリーが凄いことを言っている=次の二つの事を絶対に軽視してはならないと

- ① 忍耐と 寛容で人間の敵意といえども溶解できるなどと思ってはならない。
- ② 報酬や援助を与えれば敵対関係すらも好転させ得ると思ってはならない。

{ 第2章 家庭の王様は社会の孤児 }

(曾野)～教育は強制から始まる～日本が幼児化した最大の原因は戦後教育の失敗、学齢期までの躰は親の責任でも今の親はそれを全くしない、私達の年代では親から全部学んだ。イスラエルでは安息日に(週1回)母親が返ってくる息子や娘の家族のために食事を作り皆集って食事をしながら語り合う、見ているだけで親を大事にしていることが分かる。

(クライン)～家庭で最も強いのは？～夫は息子に大人になってどんな仕事に就くにしても、どの社会にも規律があり秩序がある、

職場でうまく仕事するには家庭での上下関係をキチンと学んでいた方がいいと言いつけていた乳飲み子から子供部屋で夫婦の寝室で寝ることはなく時間外にミルクを与えず抱き癖もつけない親は子供達に生き方や生き抜くコツをしっかりと教えていく。

(曾野)～食卓は社会訓練の場～親子の会話の目的は自分にはない体験を分かち合う場、親子の対話程大切なものはない、私達が愛の証として記憶するのは相手の言葉であり、ヨーロッパでは親がキチンとしつけている様に見える。

(クライン)～嘘のつき方を教えるドイツの親～子供の躰にはとても神経質で幼い子供にはゴミの分別を教えて3度目に間違うとピシヤリと手を叩く、4度目に正しく分別すると女の子を抱き上げて、一生懸命顔を撫でて誉めている。18歳になると親も子供を突き放し、有無を言わず経済的にも自立することを要求する、ドイツでは18歳で成人として認められ社会は完全に大人扱いする。

私が結婚してまもなく主人と姑に「交通事故を起こしても絶対に誤ってはいけない」と教わった。その結果、路面電車との接触事故の際に通常の賠償金の1割程度で済み、後で舅に褒められた。

(曾野)～裏面があるのが大人～キリスト教では人間は「表裏を持つべきだ」と断言、但し人に不機嫌な顔を見せるのは何よりも「愛」に反する行為だと聖書は言う、意識して表裏を使い分けるのが大人であり人間を単一に見ないことが成熟というもの。アラブの少年は小狡いと思っていたが長い階段を車椅子の一方を持ち上げてくれて、お金等目当てにしていなかった、彼等にとって人を助けるのは当然な義務。

(クライン)～「安全第一」でいいのか～日本の親は本当に甘い、ドイツでは子供が15～6歳で米や仏に3週間ほど体験旅行、全員ホームステイそこで様々体験、旅先で最悪のケースも覚悟の上で教師も万一事故が起きても学校は一切責任を負わないと。

(曾野)～逆境は子供を鍛えてくれる最強の教師～

私達夫婦は孫が12歳になった時に聖書とナイフを送りました、自衛の覚悟を教える為です。

自衛できない人は世界的に一人前ではない、つまり迷惑な存在、近年日本は年に3万人近くの自殺者でそれなりの事情はあっても生き通すそれだけの力を持たなければならない、今の日本人は鍛えられていない、不便や不遇はそれを好機と思ひむしろ最大限に利用すべきです。

(クライン)～経済大国になって失ったもの～日本ではいつの間にか忘れ去られてしまった質素儉約の精神がドイツでは脈々と生き続けている。

(曾野)～原点を忘れると人間としてのバランスを失う～アフリカでは1日1食しか食べられない所もあるし、貧しい国では空腹を感じなければ黒パンとジャガイモ・チーズを少しパンにつけるだけ、日本では食事が趣味的になり脂肪や糖分過剰摂取で健康を損なう人も増した。

ドイツの製品は最悪の状況に対応できるモノづくりの精神がありたくましくすぐには壊れない。

(クライン)～物は最後まで使い切る～夫の両親が買った冷蔵庫は50年も使っていた、この「モノを大事にする」心構えは暮らしの中で全てに通じている父親は子供達にあらゆるものの修理の仕方を教え女の子という言い訳は許されない、学校でも教科書は無償で借り1冊を5～8年位使い回していた、表紙は頑丈で1年使うと裏面に使用者の名前を書き落書きなどもつてのほか、いかにきれいに使うか試されている。

ドイツではじり貧になった時にどう生き残ればいいのかトコトコ教え込む、今でも多くのドイツ人は家を自分で建ててしまう、それが彼らの余暇の楽しみ。

(曾野)～子供に教えるのは親しかいない～どういう子供に育てたいか各家庭で決め親が捨て身でぶつかれば不可能なことはないと思う、全部親の仕事だと覚悟すればいい。

{ 第3章 人間を作らない学校と社会 }

(クライン)～差別が人を鍛える～戦後日本は米国からの自由と平等を進んで教育に繰り入れたが米国人の歴史的背景は「ヨーロッパでは勝ち取れなかったものを米国で手に入れる為に勇気と忍耐、固い決意と苦難を貫徹する自ら鍛えよとか不可欠だった」ドイツは戦争に負けても占領国の意のままにならず教育も昔の制度を残した。学校教育は大きく分け3つの原則があり

① 教育機会は皆平等 ② 学校は学習する場 ③ 能力に応じた教育を推進

成績の良い生徒には飛び級の機会と条件を満たさないと進級させない、全員揃っては小学校4年生迄、5年生から職人、中間事務職、エリートのコースに分かれ学習、エリートコースでは知育・徳育・体育の三拍子の教育を徹底どれ一つ欠けても卒業できない、大学も入試がなくアビチュアという大学入学資格取得で全国どこの大学でも入学金授業料不要、大学は真剣に勉強する優秀な学生しか残さない学校によっては1～2年で8割以上落第させる但しガリ勉はさせず企業研修・短期海外留学、奉仕活動など人生経験を成績とみなす。

(曾野)～人間は平等でも公平でもない～私は子供のころから酷い近眼で裁縫は出来ない絵も描けない、算数は元々できない、運動神経もない、小学校1年生の時に母から強制的にピアノと踊りと作文を書くことを始めさせられた、作文は毎日曜日に1つは書かないと遊びに出してくれなかったがだんだん定着それで小学校6年生の時に将来作家で食べていこうと思った、当初嫌な事を3つやらされて2つは直ぐに脱落、1つだけ大きく定着。

子供達には人生はむしろ不平等という現実の認識を出発点として教えるべきでそこから人は夫々面白い脱却の方法を選ぶ、例えば人間的な欠陥でも病気やマイナスの才能、辛い生活環境でもそれが個人に与えられたものならそれを元に生き、そこが出発点であり人生のテーマになり得る、平等でない運命をしっかりと使う方法を考え出すのが人間の知恵というものです。

(クライン)～ドイツには落ちこぼれはいない～学力の振るわない者は手に職をつけるから一人一人が自分の適性に合った道を進んで生活の基盤を作っていく、職業に関して日本ほど貴賤の感覚はない、政治家も資格がない人は周りが首相になる事を認めない。

日本では誰でも政治家になれると思えば資質も資格もない人物が総理大臣になったり閣僚になったりして国際社会から軽く見られがち。

(曾野)～神はその人にしかできない仕事を与えた～学校に行って教育を受け教養のある人間になるのは自分で自分の生き方を基本から学ぶ為です。ある人から成績優秀な同級生が大学を卒業して故郷の役場に就職、彼は自宅から役場まで5分、仕事が終わったらさっさと家に帰り風呂に入って、いい酒を飲み、いい本を読む、そういう人生を送っている友人を偉いと誉めていた。

自分の人生はその人自身が選ぶことです。

(クライン)～好きこそもの上手なれ～マイスター制度でドイツの教育の土台は伝統的に手に職をつけることを誇りにしている民族。マイスター制度とは「ある技に巧みな人」という意味で一芸に秀で熟練工になるには10年かかる、私の息子は高校在学中からジャーナリストになると決め放送局でバイト、NHK ラジオの研修実績が買われ優秀でないにも拘らず300人以上の応募者の中から即戦力として選ばれ高嶺の花と思っていた新聞社に就職でき不景気風の吹き荒れている頃だったので腰を抜かす程驚いた。

(曾野)～「みんないい子」ではない～人間は皆、基本的には悪い部分を持っている、しかし教育・家族の愛・信仰等で変質させ高めることが出来る。

多くの外国の文化は対立が基本で自分の立場は自分の立場、他人の立場は他人の立場だから、そこには常に一種の戦争が続いている。水も食料も金も力づくでも奪うのが原則

(クライン)～「対話・討論・話術」重視で教育の成果～ドイツでは人格形成の為に子供に備わっている計り知れない独創力引き出しに注力、一方で日本は単一思考。ドイツでは東西統一後も米・ソ・仏合わせて約80万人もの軍隊が常駐し、なかなか撤退しない彼らを1滴の血を流すことなく撤退させるには説得と対話が欠かせない武器だった、その後EUのリーダーとして大国にのし上がったたかさは教育の成果と言っても過言ではない。式典での挨拶や演説は1冊の本にしても後世に残せるほど素晴らしい内容。国会での答弁にしても日本のそれは聞く側の恥ずかしいヤジ・退屈な内容に比べ「手本の聞き手と話し上手」

(曾野)～違う意見も正しい～日本では自分の意見が絶対と思っている人が驚く程います、私達も決して人を正確に理解してはいない。ドイツの人達が悪評を恐れて自分を曲げたり単純な価値観に振り回されたりしないのは神の存在を意識していることも大きい。

(クライン)～人間を育てる社会教育～ドイツでは幼稚園からキリスト教精神を教えている、東西統一後旧ソ連を含め東欧諸国からドイツ人を含め350万人の難民に社会全体で救援、子供達に対して徹底的に博愛の精神で学校でのいじめや暴力を未然に防ぐ努力

家庭と学校教育の他に社会教育という理念が確立していて社会福祉機関・赤十字・教会等を通じ地区毎に「難民救助の会」「身障者を助ける会」「宿題を見る会」「働く母親を助ける会」「片親の子供を守る会」等無数にあり地方自治体もバックアップ。

ドイツは行政権の大半を州に与えて州立大学はあっても国立大学はない。

(曾野)～宗教教育の意味～信仰を持つとこの世の影にも光が差し込み価値観が変わる。

ブラジルではエンゼルベイビーと呼ばれる肩先から数本の指が天使の羽のように生えている障害児も貰い手が多い、そこには健康な子よりハンディを持っている子を育てれば神様はお喜びになる、という日本人にはできない人間の計算がある。

外国に行くと入国カードに「無宗教」と書く人間は一種の危険人物だと思う国は幾らでもある。

(クライン)～人間教育の総仕上げ兵役とボランティア活動～ドイツでは数年前に廃止されたが18歳の成人になると兵役かボランティア活動を1年位義務付けられた、一つには国ひいては人類への奉仕、二つには危機管理の精神と方法、三つには弱者に対するいたわりを徹底して教え込まれた。

息子は兵役を選び厳しい訓練に耐え週末に帰宅する度にその成長ぶりに目を見張った。
ボランティアを選んだ人は各種施設や介護の必要な家庭、独居老人の下で様々なケアをする。
ある青年は「妻に先立たれ孤独をひたすらに耐えている、老人になるということはこういう事かと、
しみじみ感じました」と、そして「いずれ同じ道を歩むのだ」
(曾野)～人間にも国家にも必要なものは徳の力～教育とは体力と知能に徳の力が加わらなければ
教育は完成しないし人間らしい人間も出来ない、道徳の基本は他人を思いやる事、それが出来
ない人が日本には驚く程いる。

{ 第4章 危機のない国はない }

(曾野)～日本は極楽・夢の国～日本は本当に幸せな国です、しかし豊かさに慣れると人は有難い
と感じられなくなる。

(クライン)～世界の常識・日本の非常識～ドイツの赤軍で人を殺したり誘拐して人質にしたりする過
激派は徹底して処分する、一方穏健派はうまく利用して政治家に・・・うち一人は外務大臣に赤軍
メンバーの弁護士は内務大臣に就任、彼等は過激派のノウハウを内部で熟知、いざ統括する側
に立つと国益に生かせる。

(曾野)～安心して暮らせる社会はどこにもない～ エジプトでテロ事件があり事件を機に観光客が
途絶え最初に来たイタリア人に「怖くはないですか？」の問いに「あの時死んだ人の数なんて
ローマの1日の交通事故の死者より少ないさ」と答えた。日本人の観光客が来たときに尋ねたら
「外務省が大丈夫と言ったから」それが日本人で自主的に物事が考えられず何かがあると責任
を国や社会に転嫁する。よく政治家は「皆さんが安心して暮らせる世の中にします」というが、
危険のない社会は世界中どこにもない。

(クライン)～「治安天国」という神話～世界では日本の危機管理の甘さが指摘された1995年阪神
大震災3ヶ月後には地下鉄サリン事件で治安天国のイメージが吹き飛び、その後に高速増殖炉
「もんじゅ」事故、北海道のトンネル陥没事故、不良債権による金融機関の破綻と大蔵官僚の
不祥事、HIV非加熱製剤感染に於ける隠ぺい事件、0-157全国感染、ペルー大使公邸人質、
動燃の核燃料再処理工場爆発、野村證券と第一勧銀と総会屋の不祥事、尖閣諸島や竹島領
有問題、狂牛病に関する厚労省の不祥事、外務省の不祥事件、百年に一度の東日本大震
災・・・日本人も漸く危機とはどういうものか気づき始めた。

(曾野)～力を持たない平和は机上の空論～本当に平和を通そうと思ったらイザという時、自分の命
を代りに差し出す決意が無くてはいけない力を持つ平和は可能ですが力を持たない平和は空論

(クライン)～武器なしで守れるのか～今では重装備の独連邦軍派遣先は数十ヶ国、派遣兵数も数
万人で現地評判は非常によく、しかも兵器の見本ショーの場となり米露に次ぐ世界第三位の武器
輸出国。

(曾野)～謝罪だけでは解決しない～戦争責任でも罪を認めると罪は重くなり補償の額もずっと増え
る、広島と長崎で原爆による34万人超の非戦闘員を殺しても米国は謝罪しなかった。

何度か歴代総理が「周辺国」への影響を配慮して靖国神社に参拝しなかったが、 P 7

それだけで周辺国の指導者は、日本は当分こちらの言いなりになるだろうと政治力を誇るだろう参拝を取りやめる必要は全然ない。人間も国家も存在する限り絶えず罪を犯す「罪ある歴史」をそのまま冷静に明確に自覚しながら生きていく他に成熟した人間や国家を生きる方法はないと。(クライン)～助け合いと危機管理の精神が作るコミュニティ～日本人は外国に出て自国の国に関してキチンと話せる人が非常に少ない「グローバル化」がテーマの場合、最下段に個人その上に家族次は地域社会更に国・世界へと広がり漸く地球＝グローバルが登場、日本人はいきなり真ん中のプロセスを省略してしまいがちでコミュニティを軽んじ空洞化しているので説得力に欠け心に響かない。ドイツの場合隣にどんな人が住んでいるか知らない等ということはあるが、国民一人一人が助け合いと危機管理の精神を大切にし、それがコミュニティを作りひいては国力に繋がっている。ドイツでは1956年に18歳から45歳迄の全男子に兵役の義務を課した。戦後から現在まで憲法を50回近くも変え国を守る愛国心からともいえる。

(曾野)～愛国心は身を護る必需品～国家や国旗に対する礼儀はその国の国民に対して見せる敬意の印であり何処に行っても自然にできるようにしておかなくてはいけない日本も教育すべきです(クライン)～日本は丸裸のスパイ天国～ドイツには不法難民等を含めて数百万人が入国その人達をチェックする機関があり取り締まりできる、日本にはないに等しく難民認定範囲を広げているが、移民関係もどうなるのか真剣に考える必要がある。

(曾野)～知る権利、知られない権利、知らせない権利～国家規模で外国の情報を収集するのも国家機密を厳守するのも国益の為です。日本人はもっと訓練を受けなくては、霞が関は非常に不用心、国益に関する重要機関は人の出入りをもっと厳重にチェックすべきです。指紋を照合するのが一番簡単で厳密だと思う、個人の権利もそろそろ見直すべきです。国防など個人の知る権利より国家の知らせない権利を行使しないと効果を発揮しない。

(クライン)～情報は疑ってかかるべし～危機管理や治安という面では日本が世界音痴になってしまった・責任の一端はマスコミにあり、国民も又マスコミの情報を信じすぎる。ドイツ国民はニュースに接しても先ずその背景や裏を見抜こうとする、極端に言えば新聞記者もスパイではないかと疑ってかかる。政治を成熟させるのもさせないのも国民の心がけ次第です。

(曾野)～民主主義への妄信～植民地支配から独立したアフリカの多くの国は20～30年たった今でもほとんどの国が「じり貧」でいまだに部族対立・貧困・失業・飢饉・エイズの蔓延等深刻な問題に直面している。インドの階級制は法的には無くなったが現実には就職や結婚で自分の意思を通せる恩恵等は高等教育を受けることが出来た特権階級以外の人達以外は少ない。世界的に見て人種差別は全く解決されていない。

{ 第5章 与えることが大人への道 }

(曾野)～不満の持ちようがない「足し算の幸福」無いものを数え上げるのではなくて今あるものを喜ぶ出発点を低い所へ置くと僅かなものでもあれば有難いと思えて幾らでも足し算が出来る。しかし今の日本は皆の意識が「引き算型」になっていて毎日失う事を考える、究極は死を思う。もっと原点に「あるもの」を足していけば不満の持ちようがない。

(クライン)～人間をつくる原点は家族の絆～海外支援はお金より人を優先させドンドン途上国へ出すべきで国連にいくら大金を出しても具体的には見えないから現地の人にも世界の人にも日本はまるで何もしてくれないと誤解される。

21 世紀になって初の独立国「東チモール共和国」最大の援助国は日本なのに全く評価されず 92 ヶ国の代表が集まり独立記念式典で 10 ヶ国程の大統領や首相の名を挙げて謝意が述べられて日本の名前は呼ばれなかった。

ドイツでは核家族と言ってもスープの冷めないところに祖父母が住み孫を教育・結構口うるさくても孫は大抵の事は耳を貸す、日本は甘やかす・祖父母も両親も子供に迎合人間関係を固める家庭がこれでは社会が墮落していく。

(曾野)～愛の不思議な法則～あらゆる物質はこちらが取れば相手の持ち分は減るのが原則ですが愛は与えても減らないし双方が満たされる、与えれば与えるほど増える変なものです。

(クライン)～子供から大人の国へ～日本のマスコミによる人権重視の取材方法は世界でも有名で物笑い、それなのに自分達の愚かさを棚上げしてメディア規制法だの戦前の軍国主義に逆戻りだのと騒ぎ立てる、EUではこういう規律のない国とは情報交換しないし協力できないとさえ公言。日本のマスコミこそ世界音痴丸出しの感じがしてならない。

バランス感覚は国連憲章の規定に添った国家像に日本国を近づけること、大別すると

- ① 国の枠を超えた国際的な規模での守り（軍隊と情報機関による危機管理）＝全くゼロに近い
- ② 弱者の保護（人種・差別主義を排除した保護的な工夫）

(曾野)～チップが育てる慈悲の心～日本にはその習慣がなく自分で決める勇気もない発見も感謝もない、ホテルが清掃するのは当たり前と思う、全く喜びがない。

人間の心を取り戻す為にチップの制度を少し取り入れることも慈悲の心を育てることになるのでは

(クライン)～横並び教育の弊害・ボランティア流行～寄付を他人に強制するようなボランティアの人達は自分の名誉や流行でしているような気がする。

(曾野)～損が出来なくてはいけない～献金はめいめいの思いの中にあり例え百円でも疎かには出来ない、私がお金がキチンと使われているか見届けるために費用は全て自費で電話なども一切引かない。人情は不況とは関係なく寄付金は 40 年以上で私が退任する迄に 17 億円超も善意で

(クライン)～ドイツのNGOは国を動かす～ドイツは日本の憲法にあたる基本法に「信教の自由」と「学校教育に於ける宗教教育の導入」を明記、キリスト教を中心として幼稚園から博愛主義を説き奉仕精神を植え付ける様務めている。政府はキリスト教徒に限り協会税として所得税の約 1 割を徴収し教会はその豊富な財源で教会活動を行いその多くをボランティア活動に支出。

(曾野)～与えることが大人への道～インドで宿屋に長逗留している日本の若者達に会い 4 年も暮らしている人も、誰もが素直で感じがいい若者だったがインドの神父の印象は「誰もが幸せそうには見えなかった」と「**彼等は自分がしたいことをしているだけで他人に与えるという、人としての事をしていないからです**」と。したい事だけをするのは幼児性、人はしたくない事をした時に初めて人は自分が必要とされている存在であるという事を感じて生きる意義を見つけ不思議なことに心が満たされる、多くの人はこういう経過を辿る。

(クライン)～老いも若きも奉仕する～高齢者に奉仕活動を義務づけることも先ず大人が率先して社会の為に役立とうという姿勢を示すことが大切。

(曾野)～死ぬ日までお役に立つ人生を～

私が若者達に社会奉仕を強制すべきだと思った動機は「そうしないと日本の教育問題は解決しない」介護するだけでなく老人も若者と一緒に働く、日々衰えていく老人の様子を身近に感じ、やがては自分も同じ道を歩むことになるのだから・・・

人は生きている限り自分の持っている「財力や知力」か「体力」を使って他の人に与え続けることが老人にできる最後の人間らしい成熟の形だと思う。

(完)